

基本施策の振り返りシート

基本施策	G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります
------	-------------------------------

主管課：生涯学習課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
G2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の学習要求や形態のニーズに応じた学習環境の整備 ・幅広い世代の学習機会の充実 ・地域の歴史・文化・自然等の学びを通して地域に対する興味・関心を高め、コミュニティ意識を醸成 ・だれもがいきいきと暮らしていくため、現代的課題・地域課題の解決 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○老朽化した日吉青年の家を日吉自然の家として全面供用開始、科学館展示室のリニューアル ○公民館等の生涯学習施設において、地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開設するほか、それぞれの施設の目的に沿った各種イベントを実施 ○福井県立恐竜博物館との恐竜化石等の共同研究調査 ○長崎の恐竜を中核テーマとした恐竜博物館の整備
G2-2	<p>市民の能力や経験を地域の中で活かし、地域の活性化やまちづくりにつなげるための仕組みの整備、活用</p>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習における人材情報の充実 ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録について、各公民館に公民館講座の講師の登録について協力依頼 ・公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供 ○ボランティアの活用 ・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、公民館支援ボランティアによる公民館講座での受付・案内、館外活動での受講者の誘導等の活動を実施



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>公民館等の生涯学習施設の利用者は、H28年度は2652千人、H29年度は2649千人、H30年度は2740千人であり、H29年度からH30年度は、91千人の増である。 講座や教室などの参加者数は、H28年度は83,116人、H29年度は86,829人、H30年度は95,792人と年々増加している。</p>	<p>・公民館講座参加者のアンケートでは、満足した参加者の割合は97%代と高く、公民館以外の施設においても、利用者数は増えていることから、学習のきっかけをつくるとともに、学習意欲の高まりが感じられ、だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会づくりに貢献している。</p>
<p>科学館の運営について、展示室を長崎と科学にまつわるエピソードを学びながら、科学に関する興味関心を持ち、学習意欲を高める効果を図った内容にリニューアルしたことにより、平成30年12月～平成31年1月の利用者数は17,525人で、同じ時期の前年の利用者数7,672人より、9,853人増加した。</p>	<p>・展示室を体験型のアイテムを取り入れたり、映像機器の更新をするなど時代に沿った展示内容にリニューアルしたことで、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。</p>
<p>福井県立恐竜博物館との共同研究により、887点の恐竜化石等が発見された。</p>	<p>新たに発見された恐竜化石等について、講演会での紹介、科学館での展示を行うことにより市民の学習資源として活用した。</p>
<p>長崎の恐竜をテーマとした小・中学生及び市民向け講演会を開催した。(計28回 参加者:約1,803人)</p>	<p>市民が長崎の恐竜について興味を持ち、自ら学ぼうとする学習機会の整備が図られた。</p>
<p>社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録者については、H28年度は23人、H29年度は34人、H30年度は34人であり、H28年度からH29年度は11人の増であり、H29年度からH30年度は、同様の人数であった。</p>	<p>学びを通して習得した経験や能力を、地域の活性化、つながりづくりに寄与した。</p>

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
特に市民意識調査の「自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合」が目標を達していない。	これまで公民館等を利用していない市民への利用促進不足が考えられる。
科学館の運営 ・多くの人々が科学館に足を運んだことから理科教育、生涯学習施設としての役割を十分に果たしているが、特別展などの内容が偏りがちな傾向にある。	目標年間入場者数15万人を達成するため、特別展などのイベント内容は、理科教育、生涯学習施設であることに配慮した内容にしながらも、人気があり集客が期待できる内容になりがちなのが要因の一つと考えられる。
生涯学習に関する人材バンク登録者数、地域の学習活動等へのボランティア数はともに減少している。	制度の周知不足や充実した活動となっていないことが主な要因と考えられる。

市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.43	16位 / 43項目中
	維持	期待度	1.22	20位 / 43項目中

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

指標名	基準値(時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	33% (21年度)	↑ 目標値	34.0	35.0	36.0	37.0	38.0
		実績値	33.8	36.7	34.4	38.7	34.1
		達成率	99.4%	104.9%	95.6%	104.6%	89.7%
社会教育施設などの利用者数	2,714千人 (21年度)	↑ 目標値	2,770	2,830	2,890	2,950	2,985
		実績値	2,809	2,795	2,784	2,740	2,684
		達成率	101.4%	98.8%	96.3%	92.9%	89.9%

【後期計画】

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	H31	H32
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	38.7% (26年度)	↑ 目標値	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0
		実績値	35.9	37.2	36.8		
		達成率	92.1%	93.0%	89.8%		
生涯学習施設等の利用者数	2,740千人 (26年度)	↑ 目標値	2,758	2,774	2,790	2,806	2,822
		実績値	2,652	2,649	2,740.0		
		達成率	96.2%	95.5%	98.2%		
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	25.6% (27年度)	↑ 目標値	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
		実績値	26.3	24.6	23.4		
		達成率	101.2%	91.1%	83.6%		

【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	本指標の増加が、市民の自主的な学習活動の取組み状況を把握できる数値として適しているが、市民意識調査により把握する以外の方法を検討する余地がある。
生涯学習施設等の利用者数	本指標の増加が、施設の有効活用が図られると考えられるため適している。
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	本指標の割合が増えることで、学びを通して、仲間づくりや地域づくりに活かされていると考えられ数値として適している、市民意識調査により把握する以外の方法を検討する余地がある。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況					令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号	
				完結	対応済	対応不可	対応中	対応予定			検討中
基本施策G2 だれもが生涯 を通じていき いきと学べる 社会をつくりま す	生涯学習課	<p>成果指標</p> <p>○ 成果指標「学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合」について、仲間づくりと地域づくりは異なると思うが、それを一括りにしているため、市民は混乱し、実績値も上がらないと思う。</p>	生涯学習課						●	1	
			生涯学習課								2
			生涯学習課								
		<p>評価</p> <p>○ G2の目的は、「市民が自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている」であり、学びの深まりや仲間づくりといった観点からは評価していると思うが、地域づくりについては、そこまで踏み込んでおらず、目標等として正しく見える形で掲げられていないように思う。この総合計画は市が策定し、目標を掲げていることから、具体的に何ができるのかということを実施として落とし込む必要があるのではないか。</p>									

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号
				完結	対応済	対応不可	対応中		
		<p>○ G2の主題「だれもが生涯を通じていきいきと学ぶ社会をつくり出す」については端的で理解できるが、その施策の目的として、一つが自ら学ぶとともに、二つ目に学びを通して仲間づくり、三つ目に地域づくりを行っているとされており、多くのことを求めすぎているため、評価が「D」になってしまっているのではないか。まずは、目的の方向性を絞り、段階を踏んで施策を進めていかないと、大きな目標を掲げただけで、それがどこまで達成しているのか見えにくい状況になっているのではないかと。</p>	生涯学習課					<p>番号215の回答と同様に、公民館の講座で学んだ人が、学びを通してできた繋がりがや知識を地域へ還元し、地域づくりに活かすことが生涯学習の目的であり、仲間づくりと地域づくりは一連のものである。 直接的な達成状況は見えにくいのが、公民館の役割を果たす意味でも、多くの住民が仲間づくり、地域づくりを進めることができるよう地域のニーズに応じた多種多様な講座を企画することを継続して行う。 次期総合計画策定時は適切な指標となるよう設定したい。</p>	4
		<p>評価</p> <p>○ 市において、こういうことを生涯学習と考えている、そして、この部分に力を入れているのが市の特徴である、といったことを明確に示してほしい。そうすることで、市内部のどの部門と連携を図っていくのかということにもつながるのではないかと。</p>	生涯学習課		●			<p>長崎市第四次総合計画において、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」を長崎市の将来の都市像とし、それを実現するために様々な施策を掲げている。特に教育分野では、総合計画と整合性を図りながら、第3次長崎市教育振興基本計画の中で、①身近な生涯学習施設に集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代・地域課題を学んでいる、②学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習等に活かしていることを平成32年度の姿として、生涯学習に取り組んでいる。長崎市ではこの計画に沿った様々な学習活動が行われているものの、それぞれ活動を所管している部署が縦割りになっていること、また、生涯学習という分野が多岐におよんでいるため、情報共有が十分にできていない。この課題を解決するために、市内部との連携のみならず、社会教育関係団体等とも協働して、生涯学習に取り組みたい。 加えて、社会教育の目指すところは、人づくり、まちづくりであり、市民が学びを通して、地域の課題を知り、解決のために行う部署(地域コミュニティ推進室)やふれあいセンターを所管する部署(各総合事務所)とも連携を図りたい。</p>	5
		<p>連携</p> <p>○ 例えば、小江原小学校では空き教室を利用し、そこに老人クラブの方が来て、昔の子ども遊び等を子どもにも伝えたいといったことを実施しており、そういう形で、コミュニティの形成や世代間の交流を仕掛けていく必要があると思う。公民館講座についても、テーマに応じて学びたい方が参加していると思うが、横のつながりがはなかなかなか広がっていきかと思うので、これからは横の連携という形でも色々な仕掛けを行ってほしい。</p>	生涯学習課				●	<p>地域の子どもたちに公民館を利用した経験を持たせることが、公民館利用者の増加、ひいては将来の地域の担い手として育成していくことができる。現在、公民館の講座においては、工作教室や普遊び教室など子ども向け講座のみならず、史跡めぐりなど親と子どもと一緒に学ぶ講座を実施し、親世代を巻き込んだ取り組みも行っている。また横のつながりとしては、地域行事や祭りを体験できる機会を地域の各団体と協力して行い、地域の繋がりがや連帯感を高めていきたい。</p>	6

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他			
				対応済	対応中	検討中			
		<p>指摘・意見・提案</p> <p>○ 公民館講座については、特定の方だけが参加している状態だと思つたため、今後、どうやって広げるのかが課題だと思つた。</p>	生涯学習課		●			7	
		公民館	生涯学習課	●				8	
		<p>○ 公民館を訪れてもあまり代わり映えがしないといつか、5年前と全然変わらないといった印象を受けるところがある。今も地域の方の声を取り入れたいとは思つたが、地域や利用者のための施設であれば、より広く地域の方の声を拾ってほしい。</p>	生涯学習課					9	
		科学館	生涯学習課	●				10	
		<p>○ 科学館については、特別展の開催期間は利用者が多いものの、それ以外では一度か二度利用すれば十分で、何度も行きたくないような、心ときめくような気持ちになることが少ないと子どもは思っているようである。平成30年度のリニューアルの際は、安全性を考慮のうえ、何度も行きたくないような科学館にしてほしい。</p> <p>○ 市民意識調査の結果をみると、長崎市民は何か不満があつたとしても7割～8割の多くの方は市に住み続けたいと思つているため、自分が住んでいる地域をいかに面白くしていくのかは重要な課題だと考える。そのためには、コミュニティ等の生活の場に密着した活動等が重要ではないかと思つたため、今後、色々と工夫して施策を進めることを期待する。</p>	生涯学習課		●				

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む		番号
				完結	処理中	その他	対応済	対応不可	対応中	
		<p>○ 恐竜に関するリーフレットの配布について、小学校6年生と中学校1年生を対象としているが、恐竜については、もう少し年齢が低い子ども達の方が興味を抱いているイメージがあるため、小6・中1以下の子ども達にもリーフレットを配布してはどうか。</p> <p>○ 地域の方に学ぶ機会を提供するだけではなく、地域から教えてもらうといったことも必要ではないか。地域の方は、ある意味でエキスパート、人生の先輩であり、地域ならではの経験や地域特有の財産等を吸い上げて、それを具体的な形にしていけることはとても大事だと思う。</p>	恐竜博物館 準備室	●					<p>小学校と中学校の授業内容を考慮し、化石や地層について学習する学年を配布対象としているため、これ以上の配布対象の拡大は考えていない。ただし、科学館で誰もがリーフレットを自由に入手することができるような仕組みにしている。</p>	11
		その他	生涯学習課	●					<p>公民館において、地域や公民館で活動している人を講師役にした講座を開催し、礼儀・挨拶等のマナーを地域の子どもたちに学ばせたり、町を散策し、地域の史蹟等を学ばせるなど実践的な体験学習を行っている。</p>	12

令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月26日

基本施策	G2 誰もが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくれます。		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民が	自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。	
基本施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子
関係課名	市立図書館、恐竜博物館準備室		

基本施策の評価

Db 目標を達成していないが、目標達成に向けて概ね順調に進んでいる。

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため、「D」とする。
- ・個別施策の成果指標7つのうち、過半数の4つの成果指標において100%以上の目標達成率となったことから「b」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 公民館等の生涯学習施設の利用者は、前年度より90千人の増であった。講座や教室等の参加者も9,166人増加しており、公民館講座参加者のアンケートでは、満足した参加者の割合は97%代と高い。また、公民館以外の施設においても利用者数は増えている。
- (2) 市立図書館の利用者数は、前年度より18,000人余増加した。また、図書館での調べ物の楽しさを体験した参加者は、前年度より約20%増加した。図書館で開催するイベントと、閲覧室での展示等を連携させ、閲覧室に入る取組みを実施した。また、「子ども読書活動推進計画」に基づく取組みを実施した。また、調べ物の楽しさを体験し、参加者を増やす取組みを実施した。
- (3) 恐竜化石等研究調査について、長崎で見つかった恐竜化石について周知を図り、より多くの市民が興味関心を持つことにつながった。講座の参加者数は、1,136人で、平成29年度の707人より増加した。長崎で見つかった恐竜をテーマとした、小・中学生及び一般市民向け講座の実施及び小・中学生にリーフレットを配布したことにより、長崎の恐竜に対する市民の興味関心が高まり、学習機会創出のきっかけとなった。
- (4) 生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度より77人(29.3%)減少し、地域の学習活動等へのボランティア数は179人(5.6%)減少した。制度の周知不足や充実した活動となっていないことが要因と考えられる。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
自らテーマをもって学習活動に取り組んでいる市民の割合	38.7% (26年度)	↑ 目標値	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0
		実績値	35.9	37.2	36.8		
		達成率	92.1%	93.0%	89.8%		
生涯学習施設等の利用者数	2,740千人 (26年度)	↑ 目標値	2,758.0	2,774.0	2,790.0	2,806.0	2,822.0
		実績値	2,652.0	2,649.0	2,739.0		
		達成率	96.2%	95.5%	98.2%		
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	25.6% (27年度)	↑ 目標値	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
		実績値	26.3	24.6	23.4		
		達成率	101.2%	91.1%	83.6%		

今後の取組方針

- (1)市民のニーズに応じた学習環境の整備、学習機会の充実を図る方法として、特に、公民館、科学館、図書館、ふれあいセンター、さらに、これから建設する恐竜博物館と様々な部分で横断的な連携を行い、市民が身近に感じることができる生涯学習施設になるよう努める。
- (2)行政、地域団体などと連携して、地域課題を題材にした魅力的な講座等を企画し、講座を通じた仲間づくりを進める。主体的にまちづくりに参画していこうとする意欲を高めるため、講座で学んだことを生かせる機会や場所についても情報提供を行い、個人の学びを地域に還元することによって、活力ある地域社会づくりの促進を図る。
- (3)公民館等の講座に関しては、参加者が固定化している傾向があるため、開館日及び開館時間の拡大について検討し、これまで公民館等を利用していない市民への利用促進を図る。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Db」については、所管評価のとおり。
- 外部評価までにより良い補助代替指標がないか検討をすること。
- 次期総合計画の成果指標では市民意識調査の聴き方を変えること。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-1 学習に取り組める場と機会の充実を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	身近な生涯学習施設で集い・交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題等を学んでいる。	
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子

平成30年度 of 取組概要

- ①学習開放事業
 - ・地域における生涯学習・情報活動の拠点として、学校14校の会議室等を開放した。
- ②講座開設の取組み
 - ・地域住民の関心があるテーマに基づく講座を開催するほか、社会生活に直面する問題を解決するための講座を実施し、住民の教養の向上、情操の育成を図った。
 - ・町立公民館、ふれあいセンターにおいても地域課題等について、その解決のための自主的学習をすすめるために講座に対する補助を行った。
- ③図書館を使った調べる学習コンクール開催
 - ・図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を再認識し、今後の図書館の利用促進につなげていくことを目的に、図書館を使った調べる学習コンクールを開催した(応募者数:262人)。
- ④科学館の運営
 - ・科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資するため、科学について体験を通して楽しく学習できる科学教室や、より多くの子どもたちに科学の不思議さや面白さを学ぶ機会を提供するため出前サイエンス教室を実施するなどの各種事業を行った。
 - ・展示室のリニューアルに伴う閉鎖期間中(H30.6.18～H30.12.21)の利用者の減少を防ぐため、年間2回開催しているスターシップフェスタと特別展を年3回に増やして開催したり、プラネタリウムの投影回数を増やすなどの対策を行った。
 - ・展示室を、長崎と科学にまつわるエピソードを学びながら、科学に関する興味関心を持ち、学習意欲を高める効果を図った内容にリニューアルオープンした。特に、世界遺産であるジャイアント・カンチレバークレーンや長崎の街並みなど長崎らしさを取り入れた体験型のアイテムを用いることで科学をより身近に感じ、何度来ても楽しめる工夫を行った。
- ⑤恐竜化石等研究調査
 - ・福井県立恐竜博物館との共同研究において発見された恐竜化石等を中心とする長崎の恐竜をテーマに、市内小・中学生や一般市民向けの講座を行い、市民に広く周知した。
 - ・小・中学校の理科推進委員による科学館の団体見学向けワークシートを作成して、団体見学客への活用を促した。
 - ・若い世代に長崎の恐竜について興味を持ってもらうことを目的とし、小・中学校へ恐竜化石リーフレットを配布した。
- ⑥恐竜博物館に関する取組み
 - ・国内で初めて発見されたティラノサウルス科大型種の化石など、他では見られない長崎市産の恐竜を中核テーマとし、石炭ができた時代を経て、現代に至るまでの長崎市特有のストーリーを活かした特色のある博物館をめざした基本計画を策定し、建築及び展示の基本設計につなげた。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	
公民館等の利用者数	1,331千人 (26年度)	↑	目標値	1,360	1,385	1,410	1,435	1,460
			実績値	1,339	1,333	1,357		
			達成率	98.5%	96.2%	96.2%		
公民館等の講座や教室の参加者数	92,145人 (26年度)	↑	目標値	93,200	94,400	95,600	96,800	98,000
			実績値	83,116	86,829	95,995		
			達成率	89.2%	92.0%	100.4%		
大型公民館における夜間、土日に実施する公民館講座や教室の参加者数	10,268人 (26年度)	↑	目標値	10,500	10,800	11,100	11,400	11,700
			実績値	14,652	12,930	13,026		
			達成率	139.5%	119.7%	117.4%		
公民館等で開催される講座の参加者のうち、満足した人の割合	93.7% (26年度)	↑	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
			実績値	97.6	97.3	97.8		
			達成率	102.7%	102.4%	102.9%		
ふれあいセンター等において実施された現代的課題・地域課題講座の件数	143件 (26年度)	↑	目標値	160	185	210	235	260
			実績値	160	182	246		
			達成率	100.0%	98.4%	117.1%		

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①学習開放事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立学校の教室などを学校教育に支障のない範囲で、地域の人々の学習や研修の場として開放することで、14校の会議室等で延べ1,827回開放し、28,305人の利用があった。 	<p>市立学校の教室等を学習や研修の場として開放することで、地域における生涯学習の活動の場が広がった。</p>
<p>②講座開設の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座を2,627回開催し、58,585人の参加者数があった。 ・取組み例として、子育て中の母親同士の交流の機会や息抜きの時間となるような子育て支援講座、世界遺産登録関連講座などタイムリーな話題に特化した講座、長崎の歴史や文化、人を掘り下げて学ぶ講座など多様な講座を実施できた。 	<p>地域の実情に応じた講座だけではなく、市民の関心があるタイムリーな講座を開催することで、課題解決のきっかけづくりや地域住民の教養の向上、郷土愛の醸成につながるるとともに若い世代の利用者層の開拓につながった。</p>
<p>③図書館を使った調べる学習コンクール開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる学習によって、子どもは主体的に学ぼうとする意欲を持ち、自分なりのテーマを追究し、「情報を活用する力」、「情報リテラシーの力」を身につけていく。学校で、調べ学習を行ったり、授業での成果をはかる一環に加えられたりすることで、参加者、参加校とも増えている。 	<p>調べる学習は、人が生涯を通じて学ぶための大きな力になっていることから、生涯にわたる読書習慣に繋げていく。</p>

<p>④科学館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室を長崎と科学にまつわるエピソードを学びながら、科学に関する興味関心を持ち、学習意欲を高める効果を図った内容にリニューアルしたことにより、平成30年12月～平成31年1月の利用者数は17,525人で、同じ時期の前年の利用者数7,672人より、9,853人増加した。 ・利用者数：204,235人(展示室：30,618人、プラネタリウム：36,520人、全天周映画：4,439人、観望会：7,439人、教室等：10,269人、クラブ等：867人、講演会・イベント：114,083人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室を体験型のアイテムを取り入れたり、映像機器の更新をするなど時代に沿った展示内容にリニューアルしたことで、科学に関する知識の普及・啓発の場としての利用が促進され、学びの環境・機会の充実につながった。
<p>⑤恐竜化石等研究調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎で見つかった恐竜化石について周知を図り、多くの市民が興味関心を持つことにつながった。講座の参加者数は、1,136人で、平成29年度の707人より増加した。 (講座開催実績) 小・中学生向け：9回(439人)、事業者団体向け：7回(395人)、一般市民向け：3回(262人)、野母崎地域住民向け：1回(40人) (リーフレット配布数) 小学校(6年生)70校 3,980枚、中学校(1年生)39校 3,210枚 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎で見つかった恐竜をテーマとした、小・中学生及び一般市民向け講座の実施及び小・中学生にリーフレットを配布したことにより、長崎の恐竜に対する市民の興味関心が高まり、学習機会創出のきっかけとなった。
<p>⑥恐竜博物館に関する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜博物館基本構想を基に、長崎の特色を活かした長崎独自の恐竜博物館を目指した恐竜博物館基本計画を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市産の恐竜を中核テーマとした、特色のある博物館を目指した基本計画を策定することで、市民が自ら興味を持ち、学習する機会を創出する博物館の基盤ができた。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①学習開放事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民で構成される学習開放運営協議会の組織維持が困難な地域があり、学習開放事業が実施できる市立学校が減少傾向となっている。平成28年度17校⇒平成30年度14校 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に支障のない範囲で開放していることから、平日は夜間利用のみであることや、開放教室が限られていることから活動内容が限定され、利用団体が固定化している。
<p>②講座開設の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館等において、各種講座を行っているが、参加者が固定化している傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで公民館等を利用していない市民にまずは足を運んでもらうための利用促進策が不足している。
<p>④科学館の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が科学館に足を運んだことから理科教育、生涯学習施設としての役割を十分果たしているが、特別展などの内容が偏りがちな傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標年間入場者数15万人を達成するため、特別展などのイベント内容は、理科教育、生涯学習施設であることに配慮した内容にしながらも、人気があり集客が期待できる内容になりがちなのが要因の一つと考えられる。
<p>⑤恐竜化石等研究調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館へ収蔵し、研究することで、市民の学びの材料となる長崎市産の化石資料の数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年に化石発掘調査を始めてから、調査にかけた年数がまだ浅いことや、本市に発掘作業、化石のクリーニング作業等を行う人員、設備等の体制が整備されていないことが要因と考えられる。

今後の取組方針

②公民館の取組み

・多くの住民が仲間づくり、地域づくりを進めることができるように、公民館運営審議会等の意見を聞きながら、公民館の事業を企画していく。

・平日に参加することのできない受講者のため、市民が気軽に集まりやすい場所に立地している北公民館において、開館日及び開館時間の拡大について検討する。

・ふれあいセンター及び町立公民館に対して講座の講師情報の提供や講座の企画支援などを行い、より多くの講座が実施されるよう働きかけを行う。

③図書館を使った調べる学習コンクール開催

・今後も作品の質の向上及び応募者数の増加を図るため、引き続き図書館において、調べる学習関連の講座等を実施するほか、関係部局と連携してより一層の周知を行う。

④科学館の運営

・新しく生まれ変わった体験型展示室に多くの利用者が足を運んでいただけるよう、長崎市内外へ広くPR活動を行う。

・プラネタリウムの運営や科学実験・工作による科学を楽しく遊ぶ取り組みについて、内容をさらに充実させ取り組む。

⑤恐竜化石等研究調査

・今後も発掘調査を継続して実施し、収蔵・研究に資する資料の数を増やすと同時に、発掘、クリーニング、収蔵、研究の工程を自ら行うことができる施設として、恐竜博物館の建設を進める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 学校校舎開放関連運営費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民に学校の会議室等を学校教育に支障のない範囲で地域に開放することにより、学習の機会を図る。</p> <p>(事業概要) 市立小学校8校、中学校6校の会議室等を学校の運営時間外に市民に開放する。(平日:夜間。土・日・祝日:終日) 「長崎市立学校の施設の開放に関する規則」により、運営を各学校学習開放運営協議会へ委託している。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	34,200 人	29,100 人
		実績値	28,617 人	28,305 人
		達成率	83.7 %	97.3 %
		決算(見込)額	1,609,375 円	1,628,161 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値33,539人(平成28年度)の2%増を目標値とした。</p>	<p>利用者の増が、施設の有効利用が図られていると考えられるため、利用者数を成果指標とした。 実績値28,617人(平成29年度)の2%増を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 開放回数 1,787回 利用者数 28,617人 登録団体 91団体</p> <p>(成果・課題等) 運営協議会が3校減ったため、回数・人数ともに平成28年度より減少した。 学習機会の充実を図るため、今後も事業の周知啓発に努めるとともに、他事業との連携など事業の在り方についても検討していく。</p>	<p>(取組実績) 開放回数 1,827回 利用者数 28,305人 登録団体 90団体</p> <p>(成果・課題等) 運営協議会の数は平成29年度と同じ14校であり、利用者数は312人減少しているが、開放回数は40回増えている。 開放学校によっては、利用団体が限られており、学校で生涯学習の場として教室等を開放していることへの認知度低さが課題である。 学習機会の充実を図るため、今後も事業の周知啓発に努めるとともに、他事業との連携など事業の在り方についても検討していく。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
2	<p>(事業名) 科学館運営費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 科学に関する知識の普及及び啓発並びに科学教育の振興を図り、市民の文化の向上に資する。</p> <p>(事業概要) 長崎市科学館の管理運営。 平成22年度より指定管理者である長崎ダイヤモンドスタッフ(株)による運営。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	150,000 人	150,000 人
		実績値	161,754 人	204,235 人
		達成率	107.8 %	136.2 %
		決算(見込)額	145,034,732 円	145,589,940 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>科学館を利用することで、事業目的が達成されると考えられることから、利用者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、指定管理者が提案した各年度の利用者数を基に、協議の上決定している。</p>	
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室 39,441人 ・プラネタリウム 29,527人 ・全天周映画 2,795人 ・観望会 5,667人 ・教室等 9,735人 ・クラブ等 650人 ・講演会、イベント 73,939人 <p>(成果・課題等)</p> <p>開館20周年及び入館者300万人達成の節目の年であり、平成29年度の利用者数は、目標としていた15万人を超えたが、前年度と比べると大幅に減少し、17,426人減少の161,754人となった。これは、春季特別展「3Dアート展」と夏季特別展「大アマゾン展」の利用者が予想を大幅に下回ったことが原因と考えられる。特別展については、内容が類似したものが続いているため、利用者に飽きがないような工夫をし、引き続き科学館の設置目的に沿った運営に努めるよう働きかけを行う。また、平成30年度はリニューアルのため、展示室を一時閉鎖することから、利用者減にならないような取組を行う必要がある。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室 30,618人 ・プラネタリウム 36,520人 ・全天周映画 4,439人 ・観望会 7,439人 ・教室等 10,269人 ・クラブ等 867人 ・講演会、イベント 114,083人 <p>(成果・課題等)</p> <p>展示室のリニューアル工事が行われ、展示室が閉鎖になることから、入館者の減少が懸念されたが、利用者減少防止策としてプラネタリウム投影の期間拡大、イベントの強化など様々な取組みを行った。その結果、展示室のリニューアルオープン効果も加わったこともあるが、利用者数は過去最高の20万人を超える人数となった。今後も、利用者増となるよう、展示室を利用したイベントや今までにない特別展の開催など、何度来ても楽しめるような工夫の継続と科学館の設置目的に沿った運営に努める。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
3	<p>(事業名) 科学館施設整備事業費</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 平成9年4月に開館して以来、20年が経過し、経年劣化している科学館の天体望遠鏡の更新及び展示室をリニューアルし、集客率の向上を図る。その他施設の所要の整備を行う。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成29年度 ・空調機改修工事 【事業費】10,686千円 【事業期間】平成29年度～平成30年度 ・展示室リニューアルに伴う展示物製造 【事業費】 平成29年度 60,314千円 平成30年度 140,100千円</p>	実施年度	平成28～30年度		
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)		
		目標値	100.0 %	100.0 %	
		総事業進捗率	100.0 %	100.0 %	
		達成率	100.0 %	100.0 %	
		決算(見込)額	69,642,720 円	136,977,500 円	
		当該年度執行率	98.2 %	97.8 %	
		成果指標及び目標値の説明	<p>事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。 当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。</p>		
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 平成28年度に作成した展示室リニューアルの基本設計及び実施設計を元に展示物の製造業務を着工した。また、経年劣化している空調機の改修を行った。 (成果・課題等) 展示室のリニューアルについて設計書を基に平成30年12月末オープンをめざして取り組む必要がある。</p>	<p>(取組実績) 前年度に引き続き展示室リニューアルの基本設計及び実施設計を元に展示物の製造業務を行った。 (成果・課題等) 平成30年12月に体験型の展示を取り入れた展示室をリニューアルオープンした。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
4	<p>(事業名) 恐竜化石等研究調査費</p> <p>【恐竜博物館準備室】</p> <p>(事業目的) 白亜紀後期の三ツ瀬層(約8100万年前)の恐竜・翼竜化石が長崎市から発見され、今後も化石発見の可能性が高いと言われていることから、長崎における自然史、地学の新しい学習資源とするため、化石の発掘・保存を行う。</p> <p>(事業概要) 福井県立恐竜博物館との共同研究事業として、毎年1週間程度の発掘調査を行い、福井県立恐竜博物館において、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定したのち、長崎市科学館において保存、展示する。</p>	実施年度	平成25年度～30年度		
		成果指標	動物化石標本の数		
		目標値	30 点	30 点	
		実績値	249 点	317 点	
		達成率	830.0 %	1,056.7 %	
		決算(見込)額	5,546,290 円	8,440,598 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>発掘により出土し、剖出(周囲の砂岩等取り除く作業)・鑑定したのち、動物化石と判断された標本の数を成果指標とした。</p> <p>目標値については、これまで見つかった動物化石をもとに、福井県立恐竜博物館の研究者と協議のうえ設定した。</p>		
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>発掘期間 4月22日～28日 5月22日～28日 10月18日～21日</p> <p>剖出・鑑定 4月～3月</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>クリーニング作業員の人員体制を2人から3人に増やしたことで、鑑定の効率が上がり、目標値を大幅に達成できた。剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。</p> <p>発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、一部を科学館等に展示する等、恐竜博物館への建設に向けた市民の機運を盛り上げるための検討が必要である。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>発掘期間 4月13日～19日 11月4日～8日</p> <p>剖出・鑑定 4月～3月</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>前年度から引き続きクリーニング作業員の体制が確保できたことから、前年度までのストック分の鑑定が効率的に行われ、目標値を大幅に達成できた。剖出・鑑定を終えていないものについて、引き続き作業を行う必要がある。</p> <p>発見された化石等について、リストを作成し適切な保管を行うとともに、一部を科学館等に展示する等、恐竜博物館への建設に向けた市民の機運を盛り上げるための検討が必要である。</p>	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
6	<p>(事業名) 大型公民館講座開設費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各大型公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計(人)	
		目標値	51,300 人	51,800 人
		実績値	49,131 人	51,501 人
		達成率	95.8 %	99.4 %
		決算(見込)額	7,730,074 円	8,427,168 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成28年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成29年度目標値の1%増を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 48,298人(2,065回) 研修会等 833人(17回) <p>(成果・課題等)</p> <p>目標値には達しなかったが、開催された講座に対する満足した人の割合は9割を超えていた。引き続き、誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組を行う必要がある。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 50,738人(2,166回) 研修会等 763人(19回) <p>(成果・課題等)</p> <p>目標値にはわずかに達成しなかったが、受講者数は昨年度に比べ、2千人以上増加しており、各大型館が受講者を増やす工夫を行ったことが要因と考えられる。また、満足度も9割を超えており、引き続き学習に取り組める場と機会を提供したい。</p>		
No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
7	<p>(事業名) 地区公民館講座開設費 【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 市民が生涯を通していきいきと暮らせるように、「知の循環型社会」を実現する。</p> <p>(事業概要) 市民の学習ニーズに応えるとともに、各地区公民館等において地域課題等の様々なテーマについて学習するために、幼児から高齢者まで、生涯各期に応じた講座を開設する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	講座等利用者総計(人)	
		目標値	13,300 人	13,400 人
		実績値	10,620 人	11,464 人(ふれあいセンターへ移行した公民館分を含む)
		達成率	79.8 %	85.6 %
		決算(見込)額	2,159,360 円	1,541,290 円
		成果指標及び目標値の説明	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成28年度目標値の1%増を目標値とした。	講座が様々な市民ニーズに応えることができたか判断できる数値として講座等利用者総計を成果指標とした。 平成29年度目標値の1%増を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 10,557人(553回) 研修会等 63人(2回) <p>(成果・課題等)</p> <p>ふれあいセンターへの移行による地区公民館の減少の影響を見込んでいなかった等の理由のため、目標値には達しなかったが、開催された講座に対する満足した人の割合は9割を超えていた。引き続き、誰もが受講しやすい環境整備を進め、受講者増に向けた取組を行う必要がある。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座等 11,464人(625回) (ふれあいセンターへ移行した館を含む) <p>(成果・課題等)</p> <p>微増ではあるがふれあいセンターへ移行した地区公民館を含めれば、講座利用者は増えた。また、開催された講座に対する満足した人の割合は9割を超えていた。引き続き、学習に取り組める場と機会を提供したい。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
8	<p>(事業名) 図書館を使った調べる学習コンクール事業</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進につなげていく。</p> <p>(事業概要) 図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	図書館を使った調べる学習コンクールへの応募者数	
		目標値	160 人	220 人
		実績値	305 人	262 人
		達成率	190.6 %	119.1 %
		決算(見込)額	25,815 円	29,644 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につながっていくため、応募者数を成果指標とした。</p> <p>過去3年間の応募者数の平均値の10%増となる、160人を目標値とした。</p>	<p>図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、今後の図書館等の利用促進につながっていくため、応募者数を成果指標とした。</p> <p>過去3年間の応募者数の平均値の10%増となる、220人を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 応募者数 305人 (内訳) 小学生低学年:60人 小学生中学年:69人 小学生高学年:85人 中学生:90人 一般:1人</p> <p>(成果・課題等) 平成29年度は、中学校の参加校が6校から7校へと増え、併せて応募者が76名増加した。小学校の参加校も35校から40校へと増え、中学年・高学年とも前年度を超える応募者があり、学校への周知は進んでいる。 全国コンクールへ7点の作品を推薦したところ、すべてが佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。</p>	<p>(取組実績) 応募者数 262人 (内訳) 小学生低学年:62人 小学生中学年:60人 小学生高学年:78人 中学生:62人</p> <p>(成果・課題等) 平成30年度の参加校は、小学校、中学校とも前年並みで、学校への周知が進んだ結果と思われる。 全国コンクールへ6点の作品を推薦したところ、すべてが佳作を受賞した。 引き続き、学校教育課等と連携し、さらなる周知を図り、応募者数を増やすとともに、全国コンクールでの入選作品を増やす必要がある。</p>

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-2 能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かしている。	
個別施策主管課名	生涯学習課	所属長名	荒木 尚子

平成30年度 of 取組概要

- ①生涯学習における人材情報の把握
- ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録について、各公民館に公民館講座の講師登録について協力依頼を行った。また、公民館の類似施設であるふれあいセンターに対しても、講師情報の提供を行った。
- ②ボランティアの活用
- ・地域住民が自ら公民館を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、公民館支援ボランティアによる公民館講座での受付・案内、館外活動での受講者の誘導等の活動を実施した。
 - ・中央公民館では公民館支援ボランティアによる講座の企画、立案、実施に取り組んだ。
 - ・地域住民が自ら図書館等を生涯学習の拠点として充実させていくことを目的として、図書の配架やクリッピング、イベントサポーター等の活動を実施した。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
生涯学習に関する人材 バンク登録者数	283人 (26年度)	↑ 目標値	289	293	297	301	305
		実績値	254	263	186		
		達成率	87.9%	89.8%	62.6%		
地域の学習活動等への 支援者数	3,004人 (26年度)	↑ 目標値	3,120	3,240	3,360	3,480	3,600
		実績値	3,059	3,213	3,034		
		達成率	98.0%	99.2%	90.3%		

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①生涯学習における人材情報の把握 ・社会教育に関する講師情報である「学びあいサポートバンク」への登録者については、前年度と同様の34人であった。	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる人材の情報の提供を行う。
②ボランティアの活用 ・中央公民館においては、公民館支援ボランティアが企画した講座を平成30年度秋から3回連続で行うことで公民館支援ボランティアのモチベーションアップにつながった。 ・ファミリープログラムファシリテーターの活動においては、主体的な活動内容に見直したところ、スキルアップ研修への意欲が高まる等の変化が見られた。	学びを通して習得した経験や能力を、地域の学習活動等に活かせる魅力的なボランティア活動につながった。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①生涯学習における人材情報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する人材バンク登録者数は前年度より77人(29.3%)減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する人材バンク登録についての周知不足と登録しやすい環境づくりが十分でなかった。 ・登録後も活動しやすい場所がないこと、活動内容が見えてこないことも問題であった。 ・生活環境の変化や転居等で活動できなくなった理由により、登録者数の減となった。
<p>②ボランティアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学習活動等へのボランティア数は179人(5.6%)減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学習活動等へのボランティア活動に対する関心を喚起させることが十分ではない。

今後の取組方針

- ①生涯学習における人材情報の把握
- ・「学びあいサポートバンク」への登録について、引き続き公民館等での周知に取り組むとともに、登録者の活用についても呼び掛ける。
 - ・ファミリープログラムファシリテーターについては登録までに必要な研修などのあり方について見直しを行い、登録しやすい環境づくりに努める。
- ②ボランティアの活用
- ・ボランティアの登録者数を増加させるため、活動内容の紹介を随時行うとともに、活動しているボランティアが望んでいる活動内容を把握し、魅力的な活動となるように努める。
 - ・他部署、他団体のボランティア活動と連携し、活用するように努める。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G2-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 生涯学習に関する人材情報の充実</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 講座や仕事などで習得した知識や経験、技能を有する人材を市民の学習活動に活かすことにより、市民が学び合い、支えあい、いきいきと暮らすまちづくりに資する。</p> <p>(事業概要) 自発的な意思によって学習活動等の支援を希望する個人又は団体の情報について、承諾された方については県のホームページで公表するとともに、講師になりうる人材の把握につとめ、市役所における講師人材情報提供の窓口としての役割を果たす。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	登録者数	
		目標値	293 人	297 人
		実績値	263 人	186 人
		達成率	89.8 %	62.6 %
		決算(見込)額	0 円	0 円
		成果指標及び目標値の説明	能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。 基準値283人(平成26年度)から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、平成29年度は基準値の約4%増である293人を目標値とした。	能力や経験を社会に生かすために人材バンクに登録している数を成果指標とした。 基準値283人(平成26年度)から令和2年度までに、約8%増の305人を目指しており、平成30年度は基準値の約5%増である297人を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 長崎市まなびあいサポートバンクの名簿を新たに整理したことで、実働性の高い講師情報を各公民館に提供することができ、登録についても、より積極的な周知を行うよう、各公民館に働きかけた。</p> <p>(成果・課題等) ○登録者数(市役所内の関係課が把握する人材) 263人 ・公民館等ボランティア 73人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 36人 ・学校・地域支援のための指導者・講師 59人 ・市まなびあいサポートバンク 34人 ・ファミリープログラムファシリテーター 57人 ・スポーツ教室保育ボランティア 4人</p>	<p>(取組実績) ボランティア活動の範囲、内容を見直すことで魅力的なボランティア活動につなげることができた。</p> <p>(成果・課題等) ○登録者数(市役所内の関係課が把握する人材) 186人 ・公民館等ボランティア 45人 ・いきいき地域連携強化推進事業サポーター 36人 ・学校・地域支援のための指導者・講師 40人 ・市まなびあいサポートバンク 34人 ・ファミリープログラムファシリテーター 31人 ・スポーツ教室保育ボランティア 0人</p> <p>生活環境の変化や転居等で活動できなくなった理由により、登録者数の減となった。生涯学習に関する人材バンク登録についての周知と登録しやすい環境づくりに継続して取り組む必要がある。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
2	<p>(事業名) 公民館支援ボランティアの活用</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>(事業目的) 地域住民の活動拠点となる公民館において、住民参画型の公民館活動のより一層の充実と発展を図る。 地域住民のボランティア意識の高揚及び地域課題解決のための活動に参加・参画できる仕組みづくりを行う。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した方が次の活動を行う。 ・公民館講座での受付・案内 ・館外活動での受講者の誘導、安全確保 ・講座等の企画・運営 ・各種イベントの補助(サポート) ・公民館の環境整備、広報の補助</p>	実施年度	継続		
		成果指標	参加者数延べ人数		
		目標値	900 人	900 人	
		実績値	714 人	671 人	
		達成率	79.3 %	74.6 %	
		決算(見込)額	223,030 円	199,890 円	
		成果指標及び目標値の説明	公民館講座の企画運営に参画するボランティアの数を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動内容をもとに、実施可能人数を推定し毎年900人を目標値と設定した。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・中央 149人(65回) ・東 40人(40回) ・西 109人(65回) ・南 145人(49回) ・北 10人(10回) ・滑石 261人(66回) (成果・課題等) 延べ参加者数は、目標値を達成できなかった。今後も引き続きボランティア登録者を増やすこと及び活動内容の周知を行うことにより、活動機会の増加を図る必要がある。	(取組実績) ・中央 164人(75回) ・東 28人(16回) ・西 84人(51回) ・南 137人(45回) ・北 20人(20回) ・滑石 238人(66回) (成果・課題等) 延べ参加者数は、目標値を達成できなかった。今後も引き続きボランティア登録者を増やすこと及び活動内容の周知を行うことにより、活動機会の増加を図る必要がある。また、ボランティア活動の範囲、内容を見直すことで魅力的なボランティア活動とする工夫が必要である。	

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
3	<p>(事業名) 図書館ボランティアの活用</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。</p> <p>(事業概要) ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装架や配架 ※図書の装架とは、図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること。 ・新聞のクリッピング ・図書館等での読み聞かせ等</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	1,460 人	1,590 人
		実績値	1,937 人	1,706 人
		達成率	132.7 %	107.3 %
		決算(見込)額	39,200 円	41,650 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数(延べ人数)を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値として設定した。</p>	<p>ボランティア活動の状況を把握するため、参加者数(延べ人数)を成果指標とした。 ボランティアが取り組む活動実績をもとに、過去4年間の平均値を目標値として設定した。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配架 440人(210回) ・装架 875人(128回) ・クリッピング 216人(137回) ・読み聞かせ 156人(36回) ・視聴覚チェック 3人(3回) ・イベントサポート 75人(31回) ・YA(学生)ボランティア 172人(91回) <p>(成果・課題等) 図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装架や読み語り等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配架 374人(199回) ・装架 852人(119回) ・クリッピング 153人(120回) ・読み聞かせ 196人(40回) ・視聴覚チェック 0人(0回) ・イベントサポート 54人(25回) ・YA(学生)ボランティア 77人(38回) <p>(成果・課題等) 図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装架や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。</p>		
4	<p>(事業名) 学校図書館支援事業</p> <p>【市立図書館】</p> <p>(事業目的) 市内の小・中学校図書館に配置されている学校司書と連携し、授業や学習支援に市立図書館の資料を活用する。</p> <p>(事業概要) 学校図書館の支援担当司書による相談窓口を設置し、学校図書館司書配置校への訪問や相談、団体貸出手続きの援助等を行うことで、学校図書館の運営を支援する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	学校訪問回数	
		目標値	10 回	12 回
		実績値	10 回	9 回
		達成率	100.0 %	75.0 %
		決算(見込)額	0 円	0 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>授業や学習支援において市立図書館を活用するには、学校図書館司書との連携が必要になることから、学校訪問回数を成果指標とし、平成29年度の目標値を初任者の司書が配置された学校数の5と、課題を抱えている学校数への対応と併せ10とした。</p>	<p>授業や学習支援において市立図書館を活用するには、学校図書館司書との連携が必要になることから、学校訪問回数を成果指標とし、今年度の目標値を昨年度の実績を踏まえ、初任者の司書が配置された学校6校へ複数回訪問することとし、12回とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 学校訪問回数 10回 団体貸出援助 62件</p> <p>(成果・課題等) 初任者の学校図書館司書が配置された5校への学校訪問を行い、助言を行った。さらに、課題をかかえている学校へ訪問し、課題解決に向けた助言等を行った。 また、各学校の団体貸出手続きの援助を行うことで、学校図書館との連携を図った。</p>	<p>(取組実績) 学校訪問回数 9回 団体貸出援助 19件</p> <p>(成果・課題等) 初任者の学校図書館司書が配置された6校への学校訪問を行い、助言を行った。さらに、課題をかかえている学校へ訪問し、課題解決に向けた助言等を行った。 また、各学校の団体貸出手続きの援助を行うことで、学校図書館との連携を図った。</p>		

